

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	70.0%	78.8%	112.6%	a	館内並びに館外展示(ミギシ・サテライト、移動美術館)による活用は延べ201点。所蔵品点数255点に対する稼働率は78.8パーセントとなった。「#みまのめ」や「ブリヂストン美術館展」開催により三岸作品の展示スペースが減少したため、前年度比で数値は下がったものの、スペース比を勘案しての目標値を上回る活用となった。また他館では、ひろしま美術館、道立文学館、府中市美術館の企画展でも三岸作品が鑑賞に供され、好評を得た。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				a	個人所蔵作品の情報を収集するなど、収集に向けた調査を継続的に行った。購入はなかったが、個人所蔵作品(「道化」を主題とした素描)1点の寄贈が実現した。「道化」シリーズの素描としては、これまで当館になかった1932年の制作で、画業の展開がうかがえる貴重な作。平成27年度以来、3年ぶりの作品収蔵となった。
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	館内の虫害対策や紫外線量の測定管理など、保管・展示環境の適正な維持に努めるとともに、収蔵庫内の資料整備を行い、作品以外のパネル資料の在庫をデータ化して既存資料を有効活用しやすくするとともに、収納をコンパクトにし、作品保管や作業スペースの十分な確保に努めた。

【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
A	特別展の「ブリヂストン美術館展」やアートギャラリー北海道の多彩な企画と並行あるいは連動して、コレクションを十分活用した。コレクションの充実については、個人所蔵作品1点の寄贈収集があった。保管状況については、展覧会業務の傍ら、資料整備に取り組み、今後の効率的な資料活用を可能にした。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	5,500人	6,938	126.1%	b	観覧者数と満足度は目標を達成した。リピート率は、常設展で「アートギャラリー北海道事業」を同時開催した効果により、指標値の2倍近くとなった。同事業での若手作家紹介企画「みまのめ」への反響(来場者のアンケートコメントや美術関係者の意見)が大きく、同事業展開が一定の評価を得たと考える。
	常設展示観覧者の満足度	88.0%	90.6%	103.0%		
	常設展示のリピート率	25.0%	49.0%	196.0%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	48,000人	56,917人	118.6%	a	観覧者数は、道立近代美術館との2会場開催となった大型特別展「ブリヂストン美術館展」で、54,366人の入場者を迎え、目標を大きく上回り、1983年の新館開館以来、最高の入場者数となった。施設のキャパシティの問題を順路指定などの方策で対応し、混乱なく多くの来場者を迎えることができた。満足度は目標を越えて高い数値となった。新規来場者を多く獲得したことで、リピート率は目標にとどかなかった。
	特別展示観覧者の満足度	85.0%	95.6%	112.5%		
	特別展示のリピート率	40.0%	34.0%	85.0%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				a	三岸以外の作品の展示にも通年取り組み、大型展の他、若手作家や道内美術館との連携による企画を実施した。また外国人には三岸の主な出品作品の解説一覧(英語・中国語・韓国語併載)を提供し、鑑賞の満足度向上に努めた。
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	来館者アンケートのコメントには、展示のねらいが理解されていることがうかがわれ、効果的に表現できたと考える。
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	設定なし	設定なし		b	道立近代美術館との共同実施による移動美術館で、遠方地域でも作品を紹介した。また、札幌市中央区の旧三岸好太郎美術館の建築を利用した「北菓楼 札幌本館」に、当館所蔵品を展示する「ミギシ・サテライト」を設置し、旅行者を含む来店者に作品鑑賞の場を提供し、広報に努めた。
	その他の館外展示の状況					

【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
A	全般的に目標を達成した。特に入館者数に関しては新館設立以来、最高数を記録し、「ブリヂストン美術館展」では多くの来場者に日本近代洋画の展開に三岸作品を位置付けながら名作とともに紹介することができた。また、「アートギャラリー北海道事業」の5企画を開催し、三岸作品紹介のみにとどまらない展示活動を展開した。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	30回	46回	153.3%	b	教育普及プログラムの実施数と参加者数、満足度は目標を達成した。コンサートや講演会、子ども向けプログラムに加え、若手作家紹介の新企画に関連して若手作家のアーティストトークを8回行い、若い来場者の増加につながったことも成果と考える。
	教育普及プログラムの参加者数	2,100人	2,502人	119.1%		
	教育普及プログラムの満足度	87.0%	97.6%	112.2%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	3,900人	3,571人	91.6%	c	図書コーナーの利用や満足度はおおむね達成した。図書コーナーについては、子ども向け事業の際に、絵本を読むほか、ぬり絵体験もできるようにするなど、幅広い活用を試みた。ホームページはイベント情報にも写真を多く掲載し、こまめな情報発信を行った。目標をおおむね達成できたが、より積極的な情報発信を図るため、ソーシャルメディアの活用を平成31年2月より開始した。
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	75.0%	73.0%	97.3%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	164,000件	162,043件	98.8%		
	メールマガジン等発行回数	実施なし	実施なし			
	ソーシャルメディアの投稿数		35回			
	情報発信の状況					

【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	展覧会事業やアートギャラリー北海道事業に関連して多彩な教育普及プログラムを開催し、目標を達成した。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告				b	学芸員による調査は、展覧会の企画内容や図録・展示解説の執筆、講座に活かされた。今年度は三岸関連の特別展の他、若手作家の紹介企画を手がけ、道内の若手作家を幅広く調査・研究する活動も精力的に行い、展覧会の実現と解説に結びついた。また、学芸員がこれまで行ってきた三岸好太郎以外の道立美術館の所蔵作家研究も継続して行い、『紀要』等の執筆や道立美術館内外での講演会で活かした。
	二次資料の状況					

【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	調査研究に根ざした展覧会を年度当初の計画通りに開催し、展覧会に付随した小冊子や作家解説シートなども発行することができた。また、学芸員が蓄積してきた三岸好太郎以外の調査についても、近代美術館編集の『紀要』に活かすことができた。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係 機関との連携 状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	550人	2,063人	375.1%	a	5万人を越える来場者のあった「ブリヂストン美術館展」開催中の三岸作品展示コーナーでも終盤の混雑期をのぞき、ボランティアによる所蔵品解説を実施したため、通常の3.7倍ほどの参加者数となり、大きな成果をあげた。その他の地域との連携では、北海道教育大学ならびに札幌大谷大学の音楽科卒業生によるミニ・リサイタル、近隣のパン店の協力を得た「マ〜ル記念日」にちなむ「マ〜ルパン」の企画等を行った。
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携 の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	4校	3校	75.0%	b	キャンパスパートナーシップのメンバー校数の指標値4校は、1校増を目指したが、昨年度の実績値と同じ3校となった。出張アート教室及び指導者研修については、本年度は要望がなかった。学校教育への対応数は目標を上回り、特に三岸好太郎の出身校である札幌南高等学校の授業では、密な連携により学校と美術館での授業を総合的なプログラムとして行うことができた。また、対応数には含めていないが、近隣の小学校3校において出前授業を行った。
	出張アート教室の延べ参加者数	設定なし	設定なし			
	指導者研修の延べ参加者数	設定なし	設定なし			
	学校教育活動への対応数	5件	6件	120.0%		
	参加者・利用者満足度					

【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	ボランティア団体、地域、学校等との連携については、年度当初の目標を達成した。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
付帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	75.0%	66.5%	88.7%	c	喫茶並びにミュージアムショップの満足度については、おおむね目標を達成した。事業者と協力してのサービス向上については、当館の特別展やイベントにあわせ、マールパンやオリジナル・スイーツ(後者は事業者主体)の企画を実施して好評を得、来場者の満足度を高めたと考える。
	ミュージアムショップ利用者満足度	75.0%	66.5%	88.7%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	90.0%	93.7%	104.1%	b	館内スタッフのうち、利用者対応の機会が最も多い受付と監視は委託業者が行っている。それらのスタッフに対する満足度は目標を達成した。冬季には来館者の約1割を占める外国人対応のため、受付では細やかな英文表示等を増やしており、外国人来館者の満足度も高めるよう努めた。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	85.0%	91.3%	107.4%	b	施設内外の環境への満足度については、おおむね目標を達成した。また、多目的トイレ内の手すりや知事公館の庭につづく老朽化した玄関スロープの整備を計画し、実施した。
	施設安全性保持のための必要な措置					

【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	付帯施設の充実度、館のホスピタリティ、施設環境の保持について、おおむね目標を達成することができた。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E